

## B分科会 研究課題「子供の発達に関する課題」

研究主題「個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けた指導・支援体制の在り方」  
～小学校高学年一部教科担任制の効果的運用における教頭の役割～

日南市支会(小学校B班)

### 1 主題設定の理由

2021年1月に文部科学省中央教育審議会答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～が公表された。その中で、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現のための改革の方向性として、『(1)学校教育の質と多様性、包摂性を高め、教育の機会均等を実現する。』『(2)連携・分担による学校マネジメントを実現する。』『(3)これまでの実践とICTとの最適な組合せを実現する。』『(4)履修主義・修得主義等を適切に組み合わせる。』『(5)感染症や災害の発生等を乗り越えて学びを保障する。』『(6)社会構造の変化の中で、持続的で魅力ある学校教育を実現する。』が挙げられている。

個別最適な学びと、協働的な学びの実現のためには、児童への授業を直に行っている学級担任の授業改善への取組はもちろんであるが、それらを支える学校全体を挙げての支援体制の確立も重要であり、教頭が果たすべき役割は非常に大きい。日南市支会小学校B班では昨年度、組織的・継続的に指導・支援体制を確立していくための教頭の果たす役割の在り方を明らかにすることをねらいとして、研究主題を「個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けた指導・支援体制の在り方」、研究副題を「教職員への助言や支援と教頭の役割」と設定し研究を進めてきた。この昨年度の研究の中で、B班内での様々な取組を集約紹介したが、中規模校小規模校ともに交換授業や一部教科担任制を、小中一貫校において中学校からの乗り入れ授業を行っていた学校が比較的多いことがわかった。

そこで本年度は、研究主題は昨年度に引き続き「個別最適な学びと、協働的な学びの実現に向けた指導・支援体制の在り方」とし、副題を「小学校高学年一部教科担任制の効果的運用における教頭の役割」と設定し研究を進めていくことにした。

### 2 研究のねらい

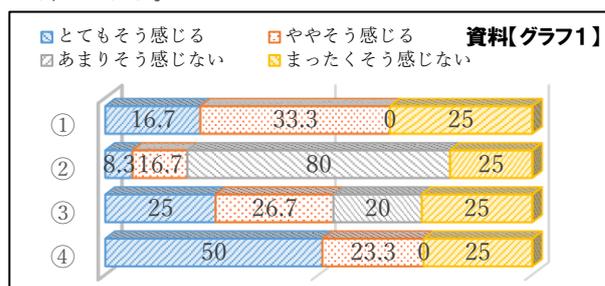
日南市内各小学校の高学年一部教科担任制の取組実態調査をもとに、学校規模に応じた指導・支援体制確立のための、より効果的な取組を検討し、教頭の果たすべき役割の在り方を明らかにする。

### 3 研究の概要と成果

#### (1) 日南市内各小学校の実態

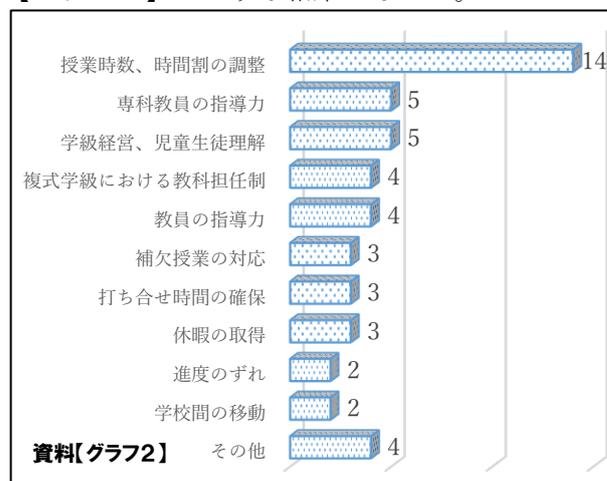
日南市の小学校は中規模校5校、小中一貫校3校、小規模校7校の計15校である。そのうち高学年一部教科担任制（小中一貫校においては乗り入れ指導制度）を取り入れている学校は、全体のおよそ9割にあたる14校であった。このように学校規模を問わずほとんどの学校で、なんらかの形で一部教科担任制の取り入れが進んでいることがわかった。

小学校高学年における教科担任制については、『①：授業の質の向上』『②：小・中学校間の円滑な接続』『③：多面的な児童理解』『④：教師の負担軽減』などのメリットがあるとされている。そこで次に、一部教科担任制および乗り入れ指導を行っている学校に実際にそれらの①から④までのメリットを感じられているかを質問した。以下、【グラフ1】はその結果である。



『②：小・中学校間の円滑な接続』については、もう少しと感じている学校が多いが、その他の項目では一般的に言われているメリットを実際に感じている学校が多いことがわかった。

一方、デメリットについて尋ねてみると以下【グラフ2】のような結果になった。



メリットがある反面、予想通り多くの学校がたくさんの課題を抱えていることが改めてわか

った。やはり人員の増員が望まれる。

(2) 【中規模校】吾田東小における取組

吾田東小は、通常学級14学級・特別支援学級3学級、児童数407人の学校である。小学校高学年一部教科担任制推進校に指定されており、通常の専科教員2名に加え、もう1名教員が増員されている。他校に比べ恵まれている環境にあると言えるが、これらの教員で、児童への指導の個別化・学習の個性化および教職員の働き方改革への取組の一環として以下

【表1】のような教科担任制を行っている。

【表1：吾田東小高学年教科分担】

学年 組	5年		6年	
	1組	2組	1組	2組
国語	★1組担任		★1組担任	
社会	1組担任	2組担任	★2組担任	
算数	★2組担任		★2組担任	
理科	★理科専科		★理科専科	
音楽	★音楽専科		★音楽専科	
図工	★2組担任		★1組担任	
家庭	★生徒指導加配		★家庭専科	
体育	★体育専科		★体育専科	
道徳	1組担任	2組担任	1組担任	2組担任
外国語	1組担任	★生徒指導加配	1組担任	★生徒指導加配
総合	1組担任	2組担任	1組担任	2組担任
学級活動	1組担任	2組担任	1組担任	2組担任
受持時数	18.9	19.7	18.8	20.0

教員にとっては、市の実態調査同様に『授業の質の向上』『教師の負担軽減』のメリットを感じている職員が多い。また、児童にとっても、『専門の先生に教えてもらって分かりやすい』や『たくさん先生と知り合える』という意見が多く聞かれた。このように、児童と教員双方に概ね好意的に受け入れられている。

教頭の主な役割は、年度末に高学年担任の希望教科をもとに、受け持ち教科の調整を行うこと、新学年始業後は授業参観を積極的に行いアドバイスや支援を行うことである。特に若手教員や希望とは違った教科を担当している教員に対する面談を密にし、支援を行うようにしている。なお、時間割の調整については教務主任が中心となり行っている。

(3) 【小規模校】細田小における取組

細田小は、単式学級1、複式学級2、特別支援学級1、児童数19人の学校である。複式学級では、国語を学年別指導<sup>\*1</sup>で行い、算数を除くその他の教科領域では2本案<sup>\*2</sup>で学習を行っている。複式学習指導は、児童の主体的な学びを展開できるなどのメリットはあるものの、個別指導の時間が少なくなることや教材研究が大変であることなどデメリットも大きい。そのため、本校では、複式指導解消や働き方改革に向けた取組として【表2】のような柔軟的

な指導体制を取り入れている。

【表2：細田小教科分担】

学年部 学年	低学年		中学年		高学年	
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
国語	学担		学担	学担	学担	学担
社会			学級担任		学級担任	
算数	学担		★特担	学担	学担	★額
理科			★特支担任		★教頭	
生活	学担					
音楽	学担		学級担任		学級担任	
図工	学担		学級担任		学級担任	
家庭					学級担任	
体育	★特		*合同体育		*合同体育	
道徳	学担		学級担任		学級担任	
外国語			★外国語専科		★外国語専科	
総合			学級担任		学級担任	
学級活動	学担		学級担任		学級担任	
受持時数	23.7		23.2		22.6	

メリットとしては、個人に差がでやすい算数できめ細やかな指導を行うことができること、担任以外にも多くの目で子どもたちに関わることができることである。また、専科がほとんどないため、空き時間のない担任の負担軽減にもつながっている。課題としては、小規模校であるが故に出張等で職員が不在の時など、時間割の調整が難しいことである。

教頭の役割として、6年生の算数と5・6年生の理科を担当し、教科指導に当たるとともに、年度末や年度当初には教務と連携し、先生方の意向や週あたりの授業時数を調整しながら基本時間割を作成する。また、授業中は各教室を適時見回り、学習が苦手な児童への支援補助を行ったり、先生方に授業改善のアドバイスを行ったりしている。

(4) 取組の成果

- ① 日南市内の小学校高学年一部教科担任制の取組状況とメリット・デメリットを明らかにすることができた。
- ② 教頭のコーディネイト役としては体制づくりと授業支援のアドバイス役が重要であることがわかった。

4 今後の課題

- ① 高学年だけでなく、教科担任制を中学年にも広げる方策を探っていく必要がある。
- ② 教頭として、より有効な指導・支援体制を絞り込み、研究を深めていく必要がある。

\*1 同一時間・同一教室で1人の教師が学年別に学習指導する方法

\*2 単元を配列し直すなどして2学年の学習内容を2カ年かけて学習指導する方法